

史跡紫香樂宮跡

(宮町遺跡第 36 次)現地説明会資料

日 時 平成 19 年 11 月 23 日(金曜日)

場 所 発掘調査現地

1. 調査名称 史跡紫香樂宮跡(宮町遺跡第 36 次)発掘調査
2. 調査地 滋賀県甲賀市信楽町宮町 1149・1150 番地
3. 調査面積 1000 m²
4. 調査期間 平成 19 年 9 月 24 日～平成 19 年 12 月中頃(予定)
5. 調査主体 甲賀市教育委員会
6. 調査担当 歴史文化財課

7. 調査位置と目的

今回の調査は、紫香樂宮跡朝堂東脇殿想定地の調査で、朝堂前殿から東に約 60m 離れています。

平成 12～14 年度の発掘で紫香樂宮跡の朝堂について一応の規模が推測できるようになっていましたが、今回の調査でその推測を裏付けるために実施しました。

8. 調査の概要

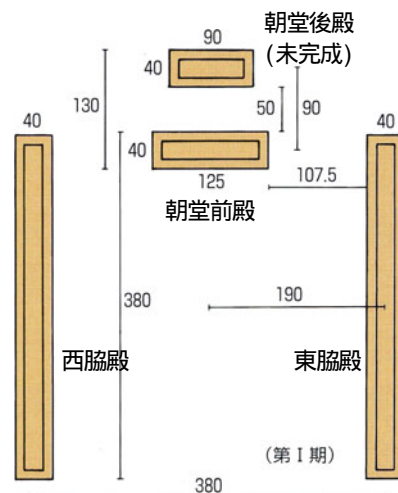
調査地から、6m を隔てて東西方向約 3.0m、南北方向に約 4.2m 間隔の 4 列の掘立柱を確認しました。

見つかった柱掘形の数は、東列から 8 基・8 基・8 基・6 基の計 30 基です。(最大延長約 32m)

いずれも隅丸方形の形状で一辺が 0.9～1.1m の柱掘形(柱を埋めるために掘った穴)の中に直径 30～40cm 程度の柱痕跡が確認されました。

検出した位置や柱間寸法から、第 29 次調査(平成 13 年度)で確認した東脇殿の南延長にあたり、過去の調査と合わせると総延長約 87m、21 間分が確認されたこととなります。

また東脇殿の柱掘形は竪穴住居(南北 3.2m×東西 2.2m)の上から掘り込まれていることがわかりました。



紫香樂宮跡朝堂模式図
数字は小尺(1尺=0.3m)

10. ま と め

東脇殿は、平成 13 年度の調査で一部を確認していましたが、今回の調査で西脇殿と同規模(東西 11.9m×南北 100m 以上)であることがほぼ判明しました。

また、柱間寸法も西脇殿と同様に、4.2m 前後と少しばらつきあり、柱間 7 間で 1 つの空間を構成していたようです。

さらに、『続日本紀』天平 17 年 1 月 7 日条に「天皇、大安殿に御しまして五位以上を宴したまふ。...(中略)...百官の主典以上に朝堂で饗を賜ふ。禄、亦差有り。」と

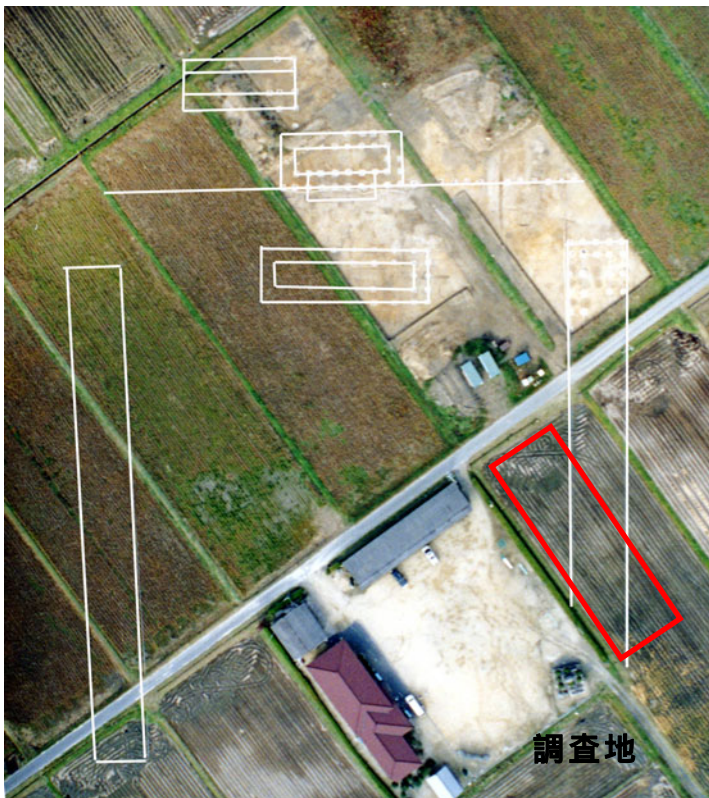
あるように、柱掘形の一部には柱抜取痕跡も確認できることから、紫香樂宮の朝堂は東西脇殿とも完成し、機能していたことが推測できるようになりました。

今回の調査で東脇殿が竪穴住居跡に後出することが、遺構の重複関係からわかりました。

これまで、同規模の竪穴住居は5棟出土していますが、通常の住居跡と比較しても小規模であること。朝堂周辺に散見されることや方位を正方位に採ることなどから一般の集落とは異なると考えられてきました。

今回の調査で、これらの竪穴住居が紫香樂宮の造営工事に関連した工房や作業施設であったことが推測でき、紫香樂宮の造営過程の一端が窺えるようになりました。

宮町会館で開催中の展覧会「聖武天皇と近江、そして甲賀」について現地説明会と並行して甲賀市調査担当者による展示解説(1回約30分程度)を実施します。



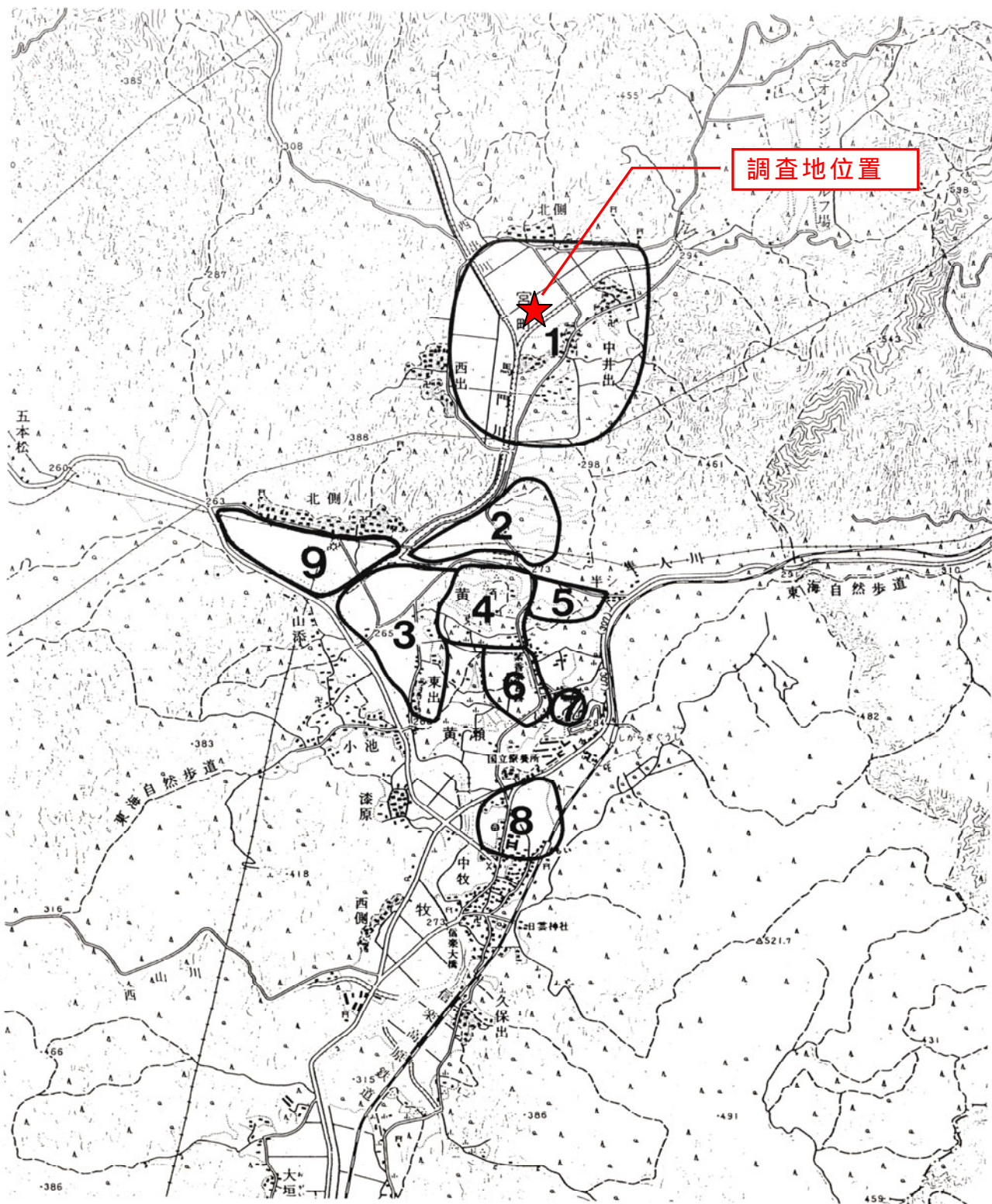
1. 今回の調査位置



2. 朝堂前殿推定復元 CG

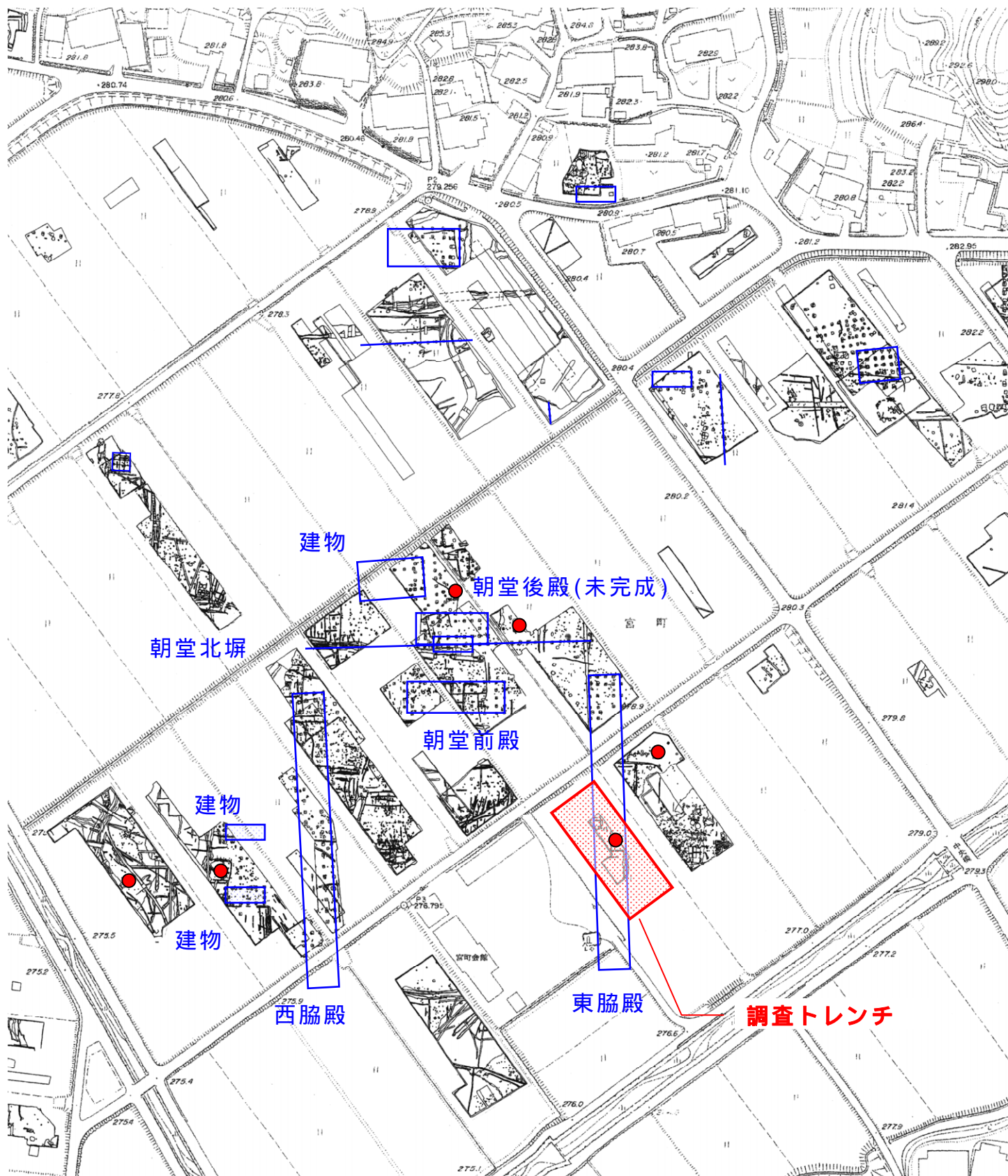


3. 朝堂脇殿推定復元 CG



4. 紫香楽宮関連遺跡の分布

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1 宮町遺跡 | 2 新宮神社遺跡 | 3 東出遺跡 |
| 4 東山遺跡 | 5 鍛冶屋敷遺跡 | 6 史跡紫香楽宮跡 |
| 7 東出西遺跡 | 8 雲井遺跡 | 9 北黄瀬遺跡 |



5. 紫香樂宮跡朝堂周辺の主な出土遺構と今年度の調査位置
 青線が主要な遺構 は竪穴住居跡の位置を示します。

